

第5回これからの北海道立近代美術館検討会議

日時：令和4年（2022年）9月7日（水）10：00～

場所：Web会議システムZOOM

次 第

1 開会

2 議事

- (1) 近代美術館のミッション案等
- (2) 施設設備の現状と課題

3 閉会

■ 配付資料

- ・ 資料1 ミッション及びコンセプト案
- ・ 資料2 「近代美術館の活動の検証」における課題への対応の考え方について
- ・ 資料3 施設設備の課題

議 事

第5回これからの北海道立近代美術館検討会議 出席者名簿

○ 構成員

| 所 属 ・ 職 | 氏 名 |
|------------------|-----------------------------------|
| 株式会社haku 代表取締役 | 菊地 辰徳 <small>まくち たつのり</small> |
| 北海道大学 名誉教授 | 北村 清彦 <small>きたむら きよひこ</small> |
| 北海道教育大学釧路校 教授 | 佐々木 宰 <small>ささき つかさ</small> |
| 北海道大学大学院文学研究院 教授 | 佐々木 亨 <small>ささき とおる</small> |
| 前札幌芸術の森美術館 館長 | 佐藤 友哉 <small>さとう ともよし</small> |

(敬称略、五十音順)

○ 道教委

| 所 属 | 職 | 氏 名 |
|------------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 教育庁 | 生涯学習推進局長 (兼)道立近代美術館担当課長 | 山上 和弘 <small>やまがみ かずひろ</small> |
| 教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 | 課 長 | 高見 里佳 <small>たかみ りか</small> |
| | 課長補佐 | 遠藤 新理 <small>えんどう しんり</small> |
| | 係 長 | 福士兼太郎 <small>ふくし けんたろう</small> |
| | 主 任 | 三國 桃子 <small>みくに ももこ</small> |
| | 主 事 | 宮下 直之 <small>みやした なおゆき</small> |
| 北海道立近代美術館 | 副 館 長 | 松田 俊也 <small>まつだ としや</small> |
| | 学芸副館長 | 中村 聖司 <small>なかむら せいじ</small> |
| | 総務企画部長 | 豊村 洋 <small>とよむら ひろし</small> |
| | 学芸部長 | 五十嵐聡美 <small>いがらしさとみ</small> |
| | 学芸統括官 | 土岐美由紀 <small>ときみゆき</small> |
| | 総務企画課長 | 今村ちぐさ <small>いまむら</small> |

ミッション及びコンセプト案

2022/09/07 北海道立近代美術館

1 ミッション案

※ ヴィジョン（ミッションを達成した後の姿）を意識した、今後の道立近代美術館の使命や役割を示すもの

北海道立近代美術館は、すべての道民が美術の持つ豊かさを享受できる社会づくりの場となります。また、多様性の尊重等、今日の課題を視野に入れながら、創造的で公共的な美術館活動を進めることによって、未来に向かって進む北海道のシンボルとなります。

2 コンセプト案

※ ミッションを達成するための柱となる概念・基本思想。

(1) 伝える 基本機能の進化

調査研究、収集保管、展示、教育普及によって美術作品の美的・歴史的意義等を現在と未来の人々へ伝えるという美術館の基本機能を、社会の変化に即して進化させていきます。

(2) 刺激する 感性と好奇心の活性化

地域性、国際性、時宜性、将来性を重んじた独創的な調査研究や企画によって、人々の感性と好奇心を刺激し、活性化させ続けます。

(3) 包み込む 包摂とアクセシビリティの向上

すべての世代に、障害や距離の有無等に関わらず美術館を楽しんでもらうために、ユニバーサル・デザインやデジタル技術の活用、ソフト・ハードのバリアフリー化等によって、利用しやすさを向上させます。

(4) 招く 居心地のよい施設と環境

都心にありながらみどり豊かという立地を活かして、居心地がよく、また、人間の活動と自然の営みとの調和を実感できるような、施設と環境の整備を進めます。

(5) 結ぶ ネットワークの拡張と地域との協働

様々な人々との間にネットワークを広げ、地域の課題に美術館活動の知恵とノウハウを提供し、協働することによって、地域の活力向上に貢献します。

「近代美術館の活動の検証」における課題への対応の考え方について

※「近代美術館の活動と検証」における課題については、今後、(ミッション・)コンセプト案を踏まえた必要な機能等を整理する段階で具体的な対応について検討予定

| 課題 | 課題に対する考え方 | コンセプト案との関連 |
|------------------|--|---|
| 1 作品の収集保存 | | |
| ① 作品購入の減少 | コレクションの必要性・重要性等について広く理解を求めていくことはもとより、近代美術館を含めた道全体での収集方針について、時代の変化にも対応しながら検討が必要 | <p>(1) 伝える～基本機能の進化</p> <p>調査研究、収集保管、展示普及によって美術作品の美的・歴史的意義等を現在と未来の人々へ伝えるという美術館の基本機能を、社会の変化に即して進化させていきます。</p> |
| ② 収集方針の検討 | | |
| ③ 収蔵庫等の狭隘化 | <p>将来の収蔵数を見込み、適切な環境で作品を保管・保存すること出来る施設・設備が必要</p> <p>⇒老朽化している施設・設備の更新</p> <p>⇒収蔵庫や什器、資料の保管場所など狭隘化の解消</p> | |
| ④ 収集環境の悪化 | | |
| ⑤ 作品修復の停滞 | <p>計画的な修復を行うことが出来るよう、作品の状態を常に把握できる仕組み作りの検討はもとより、修復の必要性について理解を得ながら予算的な措置を求めていくことが必要</p> | |

「近代美術館の活動の検証」における課題への対応の考え方について

※「近代美術館の活動と検証」における課題については、今後、（ミッション・）コンセプト案を踏まえた必要な機能等を整理する段階で具体の対応について検討予定

| 課題 | 課題に対する考え方 | コンセプト案との関連 |
|------------------------|--|-----------------|
| 2 調査研究 | | |
| ⑥ 調査研究をより深化させるための環境の充実 | 調査研究のための十分なスペースや環境が整った施設・設備が必要 ⇒ <u>収蔵庫や什器、資料の保管場所などの解消</u> | (1) 伝える～基本機能の進化 |
| ⑦ 調査研究の成果を還元できる機会の減少 | 調査研究の成果を活用できる機会を創出するため、企業や団体との協働による発表機会を確保することや、研究の成果をよりわかりやすく伝える工夫、デジタル技術を活用した調査研究成果の還元方策についても検討が必要 ⇒ <u>時代の進展にあわせたデジタル技術の活用</u> | |

「近代美術館の活動の検証」における課題への対応の考え方について

※「近代美術館の活動と検証」における課題については、今後、(ミッション・)コンセプト案を踏まえた必要な機能等を整理する段階で具体の対応について検討予定

| 課題 | 課題に対する考え方 | コンセプト案との関連 |
|------------------|--|--|
| 3 展覧会 | | |
| ⑧ 常設展観覧者数の減少 | <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化や来館者のニーズも踏まえながら魅力ある、意義のある展覧会を開催するとともに、企業や団体との協働による新たな展覧会方式の実施についても検討が必要 ・全道の美術館との連携を一層強め、美術館がない地域などでの鑑賞機会の充実のため、デジタル技術を活用した展覧会等についても研究が必要 <p>⇒時代の進展にあわせたデジタル技術の活用</p> | <p>(1) 伝える～基本機能の進化</p> <p>(2) 刺激する～感性和知性を活発化</p> <p>地域性、国際性、時宜性、将来性を重んじた独創的な調査研究や企画によって、人々の感性和好奇心を刺激し、活性化させ続けます。</p> |
| ⑨ 観覧者の時期的な偏り | | |
| ⑩ 収蔵作品の有効活用機会の減少 | | |
| ⑪ 来館者の多様なニーズ | | |
| ⑫ 実行委員会展のあり方の検討 | | |
| ⑬ 移動美術館の開催会場数の減少 | | |
| ⑭ 適切な展示環境の維持が困難 | | |
| ⑮ 展示用什器の保管場所の不足 | | |

「近代美術館の活動の検証」における課題への対応の考え方について

※「近代美術館の活動と検証」における課題については、今後、（ミッション・）コンセプト案を踏まえた必要な機能等を整理する段階で具体の対応について検討予定

| 課題 | 課題に対する考え方 | コンセプト案との関連 |
|----------------------|--|--|
| 4 教育普及事業 | | |
| ①⑥ 教育普及事業の再構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒、教員やP T Aなど関係者から意見を伺い、美術館の活用や絵画の鑑賞等により育成することが出来る資質や能力を示した教育プログラムを策定するなど、美術館の活用促進を図ることが必要 | (3) 包み込む～包摂とアクセシビリティの向上 |
| ①⑦ 子どもたちが美術に触れる機会の提供 | | すべての世代に、障害や距離の有無等に関わらず美術館を楽しんでもらうために、ユニバーサル・デザインやデジタル技術の活用、ソフト・ハードのバリアフリー化等によって、利用しやすさを向上させます。 |
| ①⑧ 教育普及のための施設設備の充実 | <p>来館者が余裕を持ったスペースで図書や映像を閲覧すること出来る場所や簡便に美術関係の情報にアクセスすること出来る施設・設備が必要</p> <p>⇒多くの方が訪れる、居心地がよく、アクセスしやすい空間</p> | |

「近代美術館の活動の検証」における課題への対応の考え方について

※「近代美術館の活動と検証」における課題については、今後、(ミッション・)コンセプト案を踏まえた必要な機能等を整理する段階で具体の対応について検討予定

| 課題 | 課題に対する考え方 | コンセプト案との関連 |
|------------------|---|--|
| 5 利用者との関係 | | |
| ⑱ 施設の老朽化等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 来館者が何度も足を運ぶようなくつろぎの空間や、市民のための活動スペース等を備えた施設・設備が必要 ・ 定期的なインタビューやアンケートを実施し、来館者のニーズを把握するとともに、その対応については、美術館全体で取り組むことが必要 | <p>(4) 招く～居心地のよい施設と環境</p> |
| ⑳ 来館者のニーズへの対応 | <ul style="list-style-type: none"> ⇒ <u>誰もが気軽に利用できる開かれた場所</u> ⇒ <u>多くの方が訪れる、居心地がよく、アクセスしやすい空間</u> ⇒ <u>都心の貴重なみどりを活かした環境整備</u> | <p>都心にありながらみどり豊かという立地を活かして、居心地がよく、また、人間の活動と自然の営みとの調和を実感できるような、施設と環境の整備を進めます。</p> |

「近代美術館の活動の検証」における課題への対応の考え方について

※「近代美術館の活動と検証」における課題については、今後、（ミッション・）コンセプト案を踏まえた必要な機能等を整理する段階で具体の対応について検討予定

| 課題 | 課題に対する考え方 | コンセプト案との関連 |
|--------------|---|---|
| 6 館運営 | | |
| ②① 予算の縮小 | 魅力ある展示や戦略的な広報を通じて観覧者数の増加を目指すほか、地域や企業、団体との積極的な協働による事業展開について検討が必要 | <p>（5）結ぶ～ネットワークの拡張と地域との協働</p> <p>様々な人々との間にネットワークを広げ、地域の課題に美術館活動の知恵とノウハウを提供し、協働することによって、地域の活力向上に貢献します。</p> |
| ②② 増収策の検討が必要 | | |

施設設備の課題（① 作品の収集・保存）

1 「これまでの美術館活動の検証」

○ 収蔵庫等の狭隘化

昭和62年に第2収蔵庫を増築してから35年が経過し、作品収蔵スペースが大幅に不足するにいたった。そのためやむを得ず、収蔵庫内の廊下や展示室の一部を収蔵スペースとして用いている。

また、安全に作品の搬出入を行うための荷解室スペース、展示什器類や高所作業車などの保管スペースも同様に不足しており、今後の収集活動及び展示に影響がある状況となっている。

■ 収蔵庫面積

| 時期 | 面積 | 摘要 | 収蔵作品数 |
|---------|--------|----------------|--------|
| 開館（S52） | 587.0㎡ | 第1収蔵庫 | 916点 |
| 増築（S63） | 810.2㎡ | 第2収蔵庫223.2㎡ | 2,587点 |
| 現在（R3） | 810.2㎡ | 展示室108㎡を収蔵庫に代用 | 5,660点 |

○ 収蔵環境の悪化

厳密な温湿度管理が求められる収蔵庫において、老朽化による空調機のトラブル等の発生や当初からの断熱等の不具合による結露などがあり、収蔵環境は万全の状態ではない。



棚と棚の間の通路に作品を保管



作品を動かさないと搬出入できない



展示室の一部を収蔵庫として使用



空調機配管の劣化

■ 文化財公開施設の計画に関する指針（H7文化庁）

3. 主要な施設等の設計

(4) 収蔵庫

イ. 収蔵庫の床面積は、展示室の床面積の半分を目安とするが、将来を見越して十分なスペースをとることが望ましい。

※近美展示室2,871㎡（特別1,094㎡、常設1,777㎡）

2 有識者、ステークホルダー等からの意見

| 区分 | 現状・課題 |
|----------------|---|
| 有識者からの意見（上記以外） | ・収蔵庫そのものを見せるなどの工夫を考へながら、北海道特有の収集、保管のあり方を考へていくべき。 |
| ステークホルダー等からの意見 | ・根幹のコレクションの修復や保存に力を入れ、展示・収蔵環境を整備。 ・作品収集の充実や海外有名作品の呼び込みには、収蔵庫拡充、設備充実が不可欠。 ・色々な収蔵品をただしまっておくのはもったいない。見せる収納を考へてみては。 ・収蔵庫の大幅な拡張を図り、極力自前の収蔵品を拡充すべき。 ・余裕を持った収蔵スペースや広いバックヤードを確保し、美術品借用先に安心感を与えられる施設に。 |

| 区分（概算） | 長寿命化診断結果 |
|-------------|--|
| 収蔵庫壁（0.3億円） | 結露対策のため内壁の改修 |
| 空調関係（7.5億円） | 貫流ボイラー、冷却塔、ユニット型空調機、自動制御盤、配管、換気扇、送付機等の更新 |
| 消火設備（0.5億円） | ガス消火、スプリンクラーの改修 |

施設設備の課題 (② 調査研究)

1 「これまでの美術館活動の検証」

- 調査研究をより深化させるための環境の充実
学芸員がより調査研究を深化させるためには、膨大な資料を収集し、研究を進める必要があるが、そのための資料の保管場所が不足している。

2 有識者、ステークホルダー等からの意見

| 区分 | 現状・課題 |
|-----------------|--|
| 有識者からの意見 (上記以外) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究のための資料を保管する場所が足りない。アーカイブ化を考えたふさわしい場所が必要。 |
| ステークホルダー等からの意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を鑑賞できるとともに、資料等を調べることができる場所であって欲しい。 ・ 作家や作品、展覧会や美術団体の情報、研究内容等をアーカイブして、広く活用することが必要。 |



美術図書室・研究室



作品修復室を資料保管庫へ転用



映写室を資料保管庫へ転用

東京都現代美術館 (美術図書室)



長野県美術館 (アトライブラリー)



古い機材のまま

施設設備の課題 (③ 展覧会)

1 「これまでの美術館活動の検証」

○ 来館者の多様なニーズ

観光客に対しては、一度きりの来館となる可能性が高いため、近代美術館でしか見ることのできない代表的なコレクションを常時展示する必要があるが、一方で、道民、特に地域住民に対しては、常に新しいテーマの展示が求められている。現在の常設展示室の面積では、双方のニーズに十分に答えることが困難である。

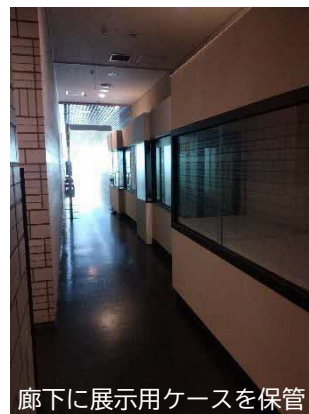
○ 適切な展示環境の維持が困難

施設の構造上の問題や設備の老朽化により、温湿度など作品に影響を与えるおそれがあるなど、適切な展示環境の維持が困難になっている。

○ 展示用什器の保管場所の不足

作品展示のためのケースや台、パネルといった展示用什器の保管場所が足りず、通路等に置いている。

| 区分 (概算) | 長寿命化診断結果 |
|------------------------|--|
| 外壁 (4.6億円) | クラック補修、塗装補修、ガラス等取替 |
| 屋根 (2.2億円) | 防水改修 |
| 空調関係 (7.5億円) ※再掲 | 貫流ボイラー、冷却塔、ユニット型空調機、自動制御盤、配管、換気扇、送付機等の更新 |



廊下に展示用ケースを保管



展示用具室が満杯

2 有識者、ステークホルダー等からの意見

| 区分 | 現状・課題 |
|--------------------|---|
| 有識者からの意見 (上記以外) | ・ 伸び伸びとした展示空間、心地よい空間・環境。 |
| ステークホルダー等からの意見 | ・ 触れることができるものがあるとよい。子どもにとっても重要。 ・ 足を運ぶ事ができない人に対するデジタルサービスの充実。 ・ 展覧会の余韻を味わえるホスピタリティ溢れる場所。 ・ 展示室が複数あれば様々な課題を解消できる。 |

■ 金沢21世紀美術館



■ 国立新美術館



施設設備の課題 (④ 教育普及事業)

1 「これまでの美術館活動の検証」

○ 教育普及のための施設設備の充実

講演会や講座などを行う講堂は、バリアフリー化など来場者の動線への配慮が不足している。また、講堂と映像室は映像・音響・照明などの設備が老朽化している。図書や美術に関する映像の視聴ができるARSコーナーは、全体のスペースに限りがあるため、閲覧スペースを数席しか設けることができない。サービスの向上のためには、設備の更新やスペースの拡張が課題である。



2 有識者、ステークホルダー等からの意見

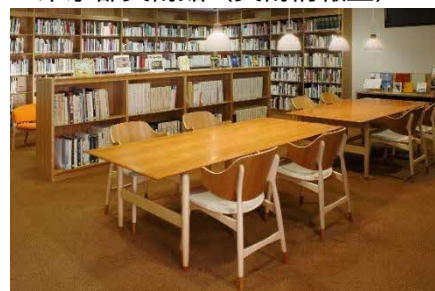
| 区分 | 現状・課題 |
|--------------------|---|
| 有識者からの意見 (上記以外) | <ul style="list-style-type: none"> ARS (アート・レファレンス・サービス) コーナーを広く、アクセスしやすくする必要。 北海道を代表するアーティストの育成。 |
| ステークホルダー等からの意見 | <ul style="list-style-type: none"> 道民が自由に利活用できるエリア (研修室や講堂、市民ギャラリー) の整備。 定期的中庭やテラス等で、子供達に読み聞かせやワークショップを行う開放的な場所があるとよい。 「人を育てる」ための取組を日常的に行える専用空間 (レクチャー室、ワークショップ室等) を待望。 いつでも若い作家の作品が展示してあるスペース。 子ども達のイベント専用の部屋、自由に現代アートと遊べる部屋があってもいいのではないか。 子どもが集える空間。学校でも家庭でも味わえない空間。ふらっと来てずっと入れる場所。 事務室が3階で学芸員と接する機会が少ない。来館者と学芸員が対話できるようなラウンジ学芸員室。 |



■ 弘前れんが倉庫美術館 (ライブラリー)



■ 東京都美術館 (美術情報室)



提供：東京都美術館

■ 富山県美術館 (アトリエ)



施設設備の課題 (⑤ 利用者との関係)

1 「これまでの美術館活動の検証」

○ 施設の老朽化等

常設展示室内で2階に上がるためには階段しかない、トイレが古い・狭い・足りないなどの苦情も多く、ボランティアの待機・活動場所が狭いなど、施設の老朽化や当初の設計に対する要望が出ている。



2 有識者、ステークホルダー等からの意見

区分

現状・課題

有識者からの意見 (上記以外)

- ・施設の老朽化等（バリアフリー、トイレ、ボランティアの待機場所等）
- ・昔は、北海道の雄大な自然を感じられる1階ホールだったが、今は大半がグッズ売り場。
- ・知事公館エリアを含めて、近隣の環境や様々な条件とのシナジーを考えることが大切。
- ・2階ロビーが1番過ごしやすい。作品を見るだけでなく、美術館に行くこと自体を目的にする方向。
- ・ランドスケープを意識した検討が必要。
- ・団体を迎えるための大型バスの駐車場がない。立地条件、特に駐車場の問題は大きい。
- ・ミュージアムショップやカフェの充実。

ステークホルダー等からの意見

- ・単に作品展示が充実しているだけでなく、美術館の空間そのものに身を置き過ごす時間も大切。
- ・展示の途中で休憩したい。トイレや小部屋、自販機などがあるとよい。
- ・ゆっくり、静かに、五感を磨ける場所になって欲しい。緑もとても大切。
- ・余裕のあるエントランスや通路、豊富なミュージアムショップ、ゆったりくつろげる休憩や飲食スペース、トイレ・ロッカーなどの設備を含め、国内外に誇れる施設。
- ・カフェやバー、レストランがもっと充実して欲しい。
- ・カフェの中で子どもが楽しめる。もっと地域に開かれた美術館。
- ・ユニバーサル・ミュージアムを目指すことが必須。
- ・小規模な市民ギャラリーや工房等、創作の場と発表の場を備えると、地域を巻き込む活動につながる。
- ・貸しギャラリーの創設により、従来以上に様々な企画を道民に提供して欲しい。
- ・緑に囲まれ中の様子がわからない。・囲いがあって周囲に溶け込んでいない。
- ・都市でありながら、前庭や公邸の緑に隣接する空間であることは最大のストロングポイント。
- ・この場所から移転してはいけない。とても貴重な場所。
- ・ボランティアルームを広くして欲しい。打ち合わせ場所やロッカーを置く場所が欲しい。
- ・大型バスや専用の駐車場があるとアクセスが便利。・道民の特性上、駐車場がないと不便。



施設設備の課題（求められているもの）

1

老朽化している
施設・設備の更新

2

収蔵庫や什器、
資料の保管場所など
狭隘化の解消

3

時代の進展に
あわせた
デジタル技術の活用

4

誰もが
気軽に利用できる、
開かれた場所

5

多くの方が訪れる、
居心地がよく、
アクセスしやすい空間

6

都心の貴重な
みどりを活かした
環境整備